

●インタッチ本部（大阪市北区）



●現地対策本部（岩手県盛岡市）



インタッチ本部では、視覚障害被災者支援のためのボランティアを募集し、電話やインターネットによる調査や情報収集、安否確認のデータ作成など、後方支援を行った。

●JBS放送局（大阪市都島区）



JBS大阪スタジオからは、視覚障害者向けの東日本大震災特別番組を放送した。

支援隊、被災地へ

●支援隊の活動スケジュール

【被災状況調査・安否確認・支援活動】

第1回：平成23年3月20日～23日

盛岡市・宮古市

第2回：平成23年4月5日～9日

宮古市・釜石市・大船渡市

【被災状況調査・安否確認・支援活動及び、ラジオを通じた「情報支援」活動】

第3回：平成23年5月17日～19日

盛岡市・宮古市・花巻市・大船渡市・
陸前高田市

第4回：平成23年9月27日～29日

宮古市・花巻市・大船渡市

【養成講座の開催】（音訳ボランティア育成、情報支援の仕組みづくり）

第5回：平成23年10月27日～31日

盛岡市・大船渡市・宮古市

第6回：平成23年12月10日～12日

宮古市

第7回：平成24年2月24日～26日

山田町・宮古市

※すべて岩手県

●支援活動スタッフ



震災から9日後、被災地へ向かう川越利信（後列中央左）・金田直樹（後列中央右）を囲む、インタッチスタッフとボランティアの皆さん。



震災から約1ヶ月後、再び被災地へと向かう荻阪敏弘（中央左）・金田直樹（中央右）と、彼らを激励するインタッチスタッフ。

支援隊の活動①

被災状況調査・被災地支援活動

第1回 平成23年3月20日～23日（初動）

震災から9日後の3月20日～23日の4日間、岩手県宮古市を訪れ、沿岸部で現地調査を行った。視覚障害者の被災状況を調査すると同時に、今後の支援活動の在り方も探った。



盛岡市で被害情報を収集

20日、秋田経由で盛岡に入る。災害時の支援活動に最も必要なものは「確かな情報」である。そこで初日は、岩手県立視聴覚障がい者情報センターをはじめ、岩手県視覚障害者福祉協会、岩手県庁（障がい保健福祉課）、大阪府・和歌山県合同現地対策本部等で岩手県各市町の被害状況について情報収集した。

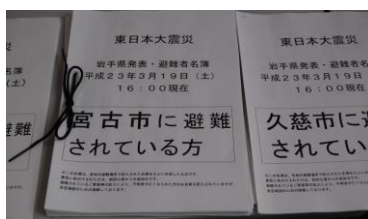
●岩手県立視聴覚障がい者情報センター



避難者名簿や交通情報等、生活に必要な情報が掲示されていた。



聴覚障害者のために手話・筆記でも対応。



閲覧用の「岩手県発表・避難者名簿」。

●岩手県庁



岩手県庁8階（当時）に設置された大阪府・和歌山県合同支援対策本部。



岩手県庁の障がい保健福祉課で安否確認のための意見交換を行う。

宮古市沿岸部で被災状況を調査

21日、盛岡市から動き始めたバスで宮古市へ。駅前付近は停電、電話も不通だが、テレビで見たような生々しさはない。被害は軽いように見えた。しかし駅よりも少し東側（沿岸部）へ向かうと、光景が極端に異なり、惨状が広がる。道路のいたる所に漁船が横たわり、倒壊した家が瓦礫の山を築いて連なっていた。



舗道には瓦礫やごみがうず高く積まれていた。



● 鉾ヶ崎地区の惨状

さらに歩を進め、鉾ヶ崎地区に入る。この地区の光景は、特に凄惨を極めた。多くの建物が全半壊し、自衛隊員が道を確認するため懸命に作業を行う。



支援隊の活動①
被災状況調査・被災地支援活動
第1回 平成23年3月20日～23日（初動）



自衛隊員や消防団員による道路確保の作業。その横を歩いて避難所に向かう。

●宮古市役所へ

22日、宮古市役所を訪れるも、行政機能はほぼ麻痺状態。市役所の1～2階は津波で損壊しており、使用不可。停電中で、オンラインも停止中。

このような状態では、安否確認等の災害対策に手の施しようがなく、お手上げ状態。市内の避難所を回り、自分たちで視覚障害者に関する情報を収集することにした。



津波で損壊した宮古市役所。



市役所の外で書類の整理をする職員。

避難所での生活

避難所で出会った視覚障害者に発災時の状況や避難所での生活について話を聞く。地震と津波で町の様子が一変し、視覚障害者は自由に歩き回ることができなくなったため、行動範囲が限定される。また、情報の取得手段が不足していることも深刻な問題だ。

身近なところでは、夜間のトイレが問題だと言う。行き慣れたトイレではないため、誰かを起こして連れて行ってもらわなければならない。これだけでも当事者にとっては、大きなストレスになる。

視覚障害者にとって、避難所生活は不自由というよりも苦痛なのである。阪神大震災時にも、避難所に行かずに、危険な自宅にとどまった人たちがいた。

